

うさぎとかめ通信

上越市立高田幼稚園

(週刊：園長室だより) 106周年

令和5年2月9日

第173号

HPのQRコード→



「思い→体験→表現」は、幼児・児童・生徒に一貫する、遊び・学びの基本！

子どもの姿から

【もも組作成の鬼のパンツ】→

3日(火)、2匹の鬼は2階からやってきました。

大きな金棒を持って、足音高く保育室に入ってきました。ところが、紙の豆を投げられて、赤鬼と青鬼は廊下を逃げ惑い、おとなしく遊戯室の戸口から陽光輝く屋外に去っていきました。昔はワイルドで恐れられていた鬼も、最近マイルドでフレンドリーな鬼さんです。子どもたちと握手したり頭をなでたりする穏やかで和やかな鬼さんたちでした。

その後、子どもたちは遊戯室で「豆まき」を歌ったり、鬼の面を作って「鬼のばんつ」を踊ったりし、さらに豆を投げ合いました。最後に、福の神が春の調べとともに遊戯室に現れ、「春」となりました。みんなは福の神からお多福さんやいわしとひいらぎなどのついた「立春リース」をもらい、ほっこりあたたかくなりました。豆まきは、みんなの健康で幸せな1年を願って取り組みました。



園庭・園舎から

【うめ組のうめタウン日々造成中】→

うめ組の「うめタウン」が拡充されています。

うめ組の保育室で、うめタウンが日々造成・拡充されています。線路が敷設され、道路が作られ、橋が架けられ、新幹線や自動車が並びました。跨線橋やマンションもでき、青い湖もあります。うめタウンをみんなで拡張することを毎日考えて製作していると、きっと楽しいでしょうね。一人一人が思いを造形表現し、それらがみんなとの共同作品になっていきます。



キーワード

【福の神から贈られた立春リース】→

〇ぐりとぐら誕生60年

昭和38年(1963年)に絵本『ぐりとぐら』が発表され、今年で誕生60年です。いつも仲良しで、お料理することと食べることが大好きな双子の野ねずみの物語絵本シリーズは、これまで7作品。うめ組の皆さんも、今年度作品展や発表会、そしてレストラン遊びなどで、長くその物語世界を楽しんでいました。

作者は中川李枝子さん。当時は保育士で、その経験を生かしてその後も幼児対象の創作が中心です。上等でおいしいものを子どもたちにごちそうしようと思い、大きな卵を使ったカステラが出てくるお話にしました。映画『となりのトトロ』の歌『さんぽ』も作詞しています。画家は山脇百合子さん。中川さんの実妹で、コンビを組むことが多かったようです。児童文学事典には、「素人めいた少女風の絵で背景が無地なのが特色」と書いてありました。当時はフランス語専攻の大学生で、初めて描く野ねずみに困ったそうです。(参考：日本児童文学学会編『児童文学事典』東京書籍・昭和63年、「新潟日報朝刊」令和5年1月8日付、福音館書店のサイト)

